

2020.9.7

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線 植物モニタリング活動

開花記録表を更新しました

四季を通して、つまり、一年中咲いている花が多くなった

赤塚公園サービスセンターのロビーには、季節の節目ごとに開花を中心に葉の展葉から結実までの植物の動きを記録した表を貼りだしています。一つひとつの種について2016年から2019年までの4年間の動きを記録しているのですが、今年（2020年）が終わると5年間の動きが読み取れるようになります。そうすると「地球温暖化」で年ごとに気温が暖かくなってきている環境変化が植物の動きにどのような影響を与えているのかが、いくらかでも分かってきます。

いまのところ確実に言えるのは、昔（このモニタリング活動の主宰者である木村は1986年から保護活動に参加）は春から夏の暖かい、または暑い季節にしか咲いていなかった花が、近年では秋の終わりまで、へたすると一年中咲いているようになったことです。赤塚城址の表で見ると、イヌムギ、カタバミとその仲間、オオバコ、オオイヌノフグリ、イヌホウヅキ、ハキダメギクなどです。とくに、春の代表的な植物のひとつであるオオイヌノフグリは昨年は12月にも開花した記録が残っています。同じ時期の石神井川緑道でも開花を確認していますので、たまたまの偶発的な事象ではなさそうです。これからも、注意深く観察を続けていく必要があります。



8月の「立秋」は「もう秋ですよ」の告知

9月の「秋分」は「実りの秋」の知らせ

さて、わたしたちは、9月は「秋のとばくち」で本格的な秋は秋分の日（今年は9/21）を過ぎてからだという「生活感

覚」を持ってきたのですが、昔の暦には「立秋」というのがあるんですね。今年は8/8でしたが、あの頃は猛暑日の連続でしたから、とっっても秋という風情ではありませんでした。ところが、掲出した記録表のように植物の動きを表にしてみれば「秋の花」は9月の冒頭から（ということは8月から）咲き揃っていたということがよく分かります。

そして、秋の花も10月の半ばを過ぎると多くが枯れて実を付けた状態になります。セル（四角のマス目）が青色で塗られているのが目立ちます。これが結実していたことを示す記録で



す。分かりやすくするために、赤塚城址でこの期間に結実した植物を抜きだしたのが本レポートの3ページ目の表-1です。

9月の後半から10月にかけては「実りの秋」のイメージが強くなってきますが、なるほど、わたしたち生活者の感覚での「秋」はこれなのですね。(前ページ写真上から**ガマズミ**、**ムラサキシキブ**、**マユミ**のそれぞれ果実)

来年の春の準備も始まっている

9~12月は寒い冬に向かう時期なので、植物には大きな動きがないと思込みがちです。この観察・記録活動を行うようになってようやく、それが間違いであることに気が付きました。別表-2をご覧ください。野草は暮らし方のサイクルによって多年草とか1年草、越年草などいろいろに分けられていますが、春に花を咲かせる植物の多くは、前の年の秋から葉を広げて、栄養を蓄えているのです。下の写真左は**セントウソウ**(細長い葉は**ジロボウエンゴサク**)、右は**ムラサキケマン**の越冬葉(色が鮮やかでないもの)と春の本葉展開。だから、冬だからといって、林の中を踏み荒らしたり、根こそぎ刈り取る手入力は禁物なのです。

冬の林では野草が春の準備をしていることが分かりましたが、「春植物」といわれる、春先に葉を伸ばして一斉に開花したかと思ったら春の終わりには葉も茎も地上から姿を消して、翌年春まで地下で生きている植物群があります。ニリンソウはその代表種なのですが、それらは年末とか厳冬期には葉を広げてはいません。それなのに、近頃の赤塚公園ニリンソウは葉を伸ばすどころか花を咲かせてしまうのです(表-2の003「ニリンソウ」の11~12月の動きに注目!)

これは異常現象! このことにも注意して観察していかなければなりません。



モニタリング(植物観察・記録)活動 だれでも歓迎!

9月の予定 9/14、9/21 いずれも 9:00

赤塚ため池公園梅林下出発 雨天中止

お問合せは赤塚公園サービスセンターまで

☎ 03-3938-5715

←厳冬期に異常開花するニリンソウ
これが問題、要観察!

